

平成26年度第1回学校協議会

大阪府立長野北高等学校平成26年度第1回学校協議会が6月19日に本校会議室にて執り行われました。

出席者

【学校協議会委員】

寺西 淳 様
中野 克也 様
田中 里美 様
原田 勝次 様
工藤 京子 様
水上 道子 様

【事務局】

校長 大門 雅人
教頭 後藤日出樹
教頭 奥野 隆博
首席 錦 信好 (生徒指導部長兼務)
首席 井迫洋一郎 (記録)
図書教務部長 及川 龍貴
総務部長 芝田 悦子
特別活動部長 北川 慎
保健部長 川越 恭子
進路部 藤本 和巳
39期学年主任 秋山平八郎
40期学年主任 吉野 篤子
41期学年主任 田中 康之

○協議会委員長選出

推薦により寺西氏が委員長選出

委員長代理は推薦により中野氏が選出

協議案件

○平成26年度学校経営計画

学校像について大門校長より説明

① 平成26年度学校経営計画について

大阪府のグローバルな人材の育成に対して現在わが校の入学希望者は地元出身が多数を占めている。地に足をつけた育成を進めるために学校像として項目4を追加。

更に「勉強がわかる喜びを感じてもらおう授業作り」を目標に、本年度は6月10日に教職員研修を実施した。岡山県立邑久高等学校の「協同学習」の実践を見学した。研修をもとにアンケートをとって振り返りの研修も夏期休業中に実施予定である。

実際に研修後「学びあい」をテーマにした授業を行う教員も出てきており、もっと発想を転換し工夫を凝らしたものを学校で進めたい。(角田指導教諭)

学校像・中期目標に対しての会長からの意見

Q：職員の研修について研修先での少人数展開について学校では何名でどのように行っているか。

A：1クラス20名前後の少人数展開で授業をしていたということ、教員からの一方的な授業ではなく意見を出し合う双方向性があり、その点が協同学習の主題となるものであった。

Q：授業力向上研修はどのくらいの頻度でおこなっているか。

A：回数は未定ではあるが積極的に行う予定である。特に再任用の教員の授業を見学し教員間の学校内での研究や研修を計画している。近隣の高等学校とも連携し授業力向上の研修をおこなう予定である。

Q：将来計画している選択コース制カリキュラムの設置検討委員会の進捗状況について。

A：設置については現在検討中であり、同じ市内にある府立高校との違いをどうするかを念頭に、看護師志望の生徒へ力をいれる予定である。

Q：「安心安全な学校作り」について、具体的に何を施策として挙げているか、特に自身の経験から学校として危機管理マニュアルなどの作成もひとつの施策だと考える。マニュアルの作成を提示することで保護者、地域の安全安心につながるのではないかと。作っていくべきである。

A：危機管理も重要事項として認識している。同時にいじめなどなくす安心な学校作りをすすめる。

Q：中退防止のための授業作りを考えてほしい。また、学力をつけることで学ぶ楽しさを実感させることに重点をおいてほしい、教員の連携をしっかりとしてもらいたい。その上で、受験を意識させる、中間層のボトムアップ、保護者への生活リズムをつける習慣の指導と施策(例、立命館の朝食提供など)を考えてほしい。

A：学校生活の対応のひとつとしてスクールカウンセラーなどの体制を整えている。学校にも月に複数回来校してもらい生徒や教員の相談にのってもらっている。

② 長北マップ、NEWSについて

地域に長野北高校のよさをアピールするために広報紙を発行する。その中で地域の方のご意見を伺いたい。あらゆる地域の方々のお力を借りて育み、進路の実現をはかる。(大門校長、奥野教頭)

長北マップ、NEWSについての意見

Q：学校説明会、公開講座、楽習室について詳しく教えて欲しい

A：理科離れを食い止めたという思いから小学校や公民館などで本校生とともに実験授業をはじめた、それが楽習室。今年も7月に実施予定で本校の生徒の頑張りを見てほしい。(奥野教頭)

公開講座は年2回長期休暇期間中に実施している。趣味から実践的なもの、学術的なものを多岐にわたって開講している。対象は地域の方を対象として1回につき20名以上の参加がある。オープンスクールは今年2回、9月11日に実施予定。対象は近隣中学3年生としている。本年度は生徒の実際の姿を見てもらおうと授業風景などの見学を企画している。更に学校説明会という説明会も実施予定。昨年度オープン

スクールは103名、説明会は20名程度の参加があった。(錦首席)

③ 分掌、学年の取り組みについて

各分掌長より昨年の活動概要と本年度の活動予定を報告した。

- ・教務部から：きちんと授業出来るような環境作りに重点をおいている。特に少人数習熟度別の授業展開を1、2年生で実施している。現在は数学、理科、社会、英語でおこなっておりきめ細やかな指導ができている。
- ・特別活動部から：1年生全員対象の部活動体験を昨年度より実施している。その結果としてクラブ体験等部活加入率は向上しているがまだ不足であると感じている。更に何か施策を講じたい。
- ・保健部から：心身の教育にこの数年間、力を入れている。生徒が健やかに学校生活を送ることが出来るようにカウンセラーや各機関との連携を密に行い生徒のケアに努めている。
- ・生活指導部から：懲戒指導について年々総数が減っており、改善方向に向かっている、ひとえに先生方の生徒指導の取り組みの結果である。
- ・進路指導部から：資料を提示したうえで現在の進路状況について説明した。特に近年進学よりも就職を希望する生徒が増える中でどのように指導していくかが課題としてあがっている。
- ・総務部から：奨学金、PTAなど校外外の関係の調整をおこなっている。特に奨学金関係については生徒、保護者を対象にきちんと説明をするようにしている。
- ・各学年より：1年生は入学して3ヶ月、そろそろ疲れもでてきているところであるが、生徒たち自身は明るく活発である。2年生は11月に修学旅行を控え、若干の中だるみをしている状況である、その点について引き締めて指導をおこなっている。3年生は進路実現に向けての指導を実施中、漢字検定や補習など生徒、先生ともに頑張ってくれている。

分掌、学年の取り組みについての報告に対する意見

Q：自転車通学の割合と指導の内容はどのようになっているか。

A：本校生徒の6～7割が自転車登校であり、乗り方や交通ルールについて4月に全体指導をおこなっている。(錦首席)

Q：生徒のアルバイトについての指導はどのようになっているか。

A：原則禁止としているが、現在の社会を取り巻く状況や家庭環境によって強く指導はできていない。しかし学校生活などに影響が有る場合は指導を行っている。また、我慢が出来にくい生徒への指導が課題のひとつとなっている。ピアス、化粧についての指導は現在一斉指導していない。そのため逆に認められていると思込んでいる。本来は禁止事項であるために家庭での指導もお願いしていく。(錦首席)

Q：指定校推薦入試、AO入試など進路の活動が早くなっている現状、授業体制などはどのように取り組んでいるか。

A：専門学校は6月よりAO入試を解禁している。しかし調査書の発行は8月なので急いで決定させないようにしている。専門学校の入試については一部を除き秋以降でも間に合うのでじっくり考えさせる指導を行っている。大学についても同様であるとしたうえで、本音はきちんと受験勉強をさせたい思いが強い。又、進路や3年生の先生を中心に講習等を行っている。現状は出来るだけ早く決めてしまいたいというのが生徒の気持ちの中で大きい。それゆえに本来考えていた志望とは異なる進路に流れる傾向となっているのが課題である。また、大学や専門学校を中退してしまう生徒が増えている。理由は学費が途中で払えき

れなくなっていることが要因であり、総務部の奨学金の話などをきちんと聞くように指導をしている。就職については就職試験までの面接練習や履歴書作りなどの準備が時間的にも、生徒の書く能力的にも大変になってきており学校全体の取り組みとして考える時期になっている。指定求人は少しずつ増えてきているからこそ指導をきちんとしたい。大学受験指導については大阪府立大学など国公立に進学する生徒もいる。指導としては進学意識の高い生徒に声をかけて個別に進学指導をしている状況となっている。全体的に生徒の「受験」の意識が低いことが課題であり専門学校、大学のほとんどが全入できる時代となっている中でまず自分の目でみて確かめるような指導を学年ごとに実践してもらっている。(藤本教諭)

最後に、我が校は急な人員の入れ替わりで経験の浅い教員が役を担うことが多くなっている。ベテランが若手への技術の継承、指導もままならないことが課題。「走りながら育てる」ことも必要であると考え。(大門校長)

後藤教頭より次回の日程を確認

第2回は10月16日、第3回は1月15日に設定